

町のお医者さん

羽鳥 裕

医療法人社団 はとりクリニック (神奈川県川崎市)

当院は、川崎市幸区、JR横須賀線の新川崎駅と南武線の鹿島田駅近くにある下町の診療所です。

古くは太田道灌が江戸城造築を考えた小さな丘のある田園をもった、多摩川近くの農村でした。いまでこそわが国の経済を牽引する弱電産業の研究所、ハイテク工場も多数ありますが、通院してくる患者さんの多くは、旧家の農家であり、同一名字の自家・分家が脈々と命をつないできた人情の篤く気っ風のよいところと感じます。

小生は、建築学科を卒業してから医学部へ入り直した変わりものです。横浜市立大学第二内科と成人病センター(現・がんセンター)、横浜市立港湾病院(現・みなと赤十字病院)など関連病院を行き来し、多くの先生の薫陶を受け、神奈川県予防医学協会で人間ドックの総括、循環器診療をしながら約30坪の3階でビル診のテナント開業をしていました。成人病センター在籍中に築山久一郎先生の臨床高血圧研究の手ほどきを受け、港湾病院在籍中にスポーツ医学で高名な高尾良明先生に誘っていただき、国体出場全選手の運動負荷を含むメディカルチェック、ジュニアスポーツ選手の健康管理、マラソンランナーなど持久力を要する選手の呼気ガス分析、運動耐容能の測定を通して内科系スポーツ医学の研究に入りました。

これは、開業後も、土日に競技会場に出かけてフィールドワークを通して多数の現場の選手、コーチと関わり、実際の故障などを見ることによって実習して参りました。

開業したのが昭和天皇崩御のときで、かれこれ20年がたちました。診療には、個人の先生が開発されたDYNAMICSという電子カルテとRSBASE、DICOMサーバーなどファイリングソフトを使って、紙・フィルムの削減を図りました。しかしあまりにも診療所が狭すぎて、待合室で患者さんが1時間立ちっぱなしという事態にもなっていましたところ、隣に100坪の土地があったので、思い切って全面的に移転し、婦人科の先生にも入居していただき、薬局も開いてもらって、住居・診療所を同一住所にしました。

10年ぐらい前から気持ちに余裕ができて、医師会活動にも参加し、川崎市医師会の医療情報システム委員会の立ちあげ、医師会の医師会健康スポーツ医部会立ちあげ

を同時におこないました。その後医師会の理事となって、産業医部会、健保担当となりましたが、ちょうど、小泉・宮内・竹中の規制改革、財政諮問会議の圧力で混合診療導入、医療費削減の嵐の中でもまれ国会陳情に出かけたこともありましたが、そして、2年前からは神奈川県医師会理事として公衆衛生、特定健診・特定保健指導などの担当をしています。

この誌面に登場された先生方と同じですが、地域医療で内科、循環器を開業していると次第に複雑な疾患をもつ高齢者が多くなり、在宅患者の往診もおこなっています。できるだけ全人的にみることを心がけ、検診なども積極的に利用して、見逃しの少ない医療を目指そうとして、内視鏡などの消化管検査、胸部のヘリカルCT検査などを導入しました。

また、患者離れのよい医療が患者さんのためにもなると考え、病診連携も積極的におこなってきました。川崎市内科医会でも副会長の立場から会員の臨床に役立つ講演会を企画しています。また、近隣病院主催の研究会にも参加して、それぞれの病院担当医の得意とするところを把握するようにしています。内科全体の講演会では聞けないようなテーマでは、循環器勉強会を近隣の先生とともに主催し、マニアックに臨床最先端の研究、トピックスの講義に触れるようにしています。

臨床研究としては、動脈硬化の評価は重要と考え、頸動脈エコー、心臓大動脈エコー、脈派PWV/ABI、AI、トレッドミルなどをおこなって、重篤なイベントの起きる前に積極的な治療をおこなうよう患者さんにつね日頃お話ししますが、高齢になるとなかなかよい反応を得るのはむずかしくなります。開業後も降圧薬、糖尿病薬、脂質異常症薬の効能追加などの比較的ストレスの少ない治療に参加してきましたが、現在では、医師主導型の研究に参加しています。神奈川県内科医会でおこなっている、降圧薬の実地での使われ方をみる神奈川高血圧研究(神奈川メガスタディ)や、東北大学臨床薬理学の今井潤教授の家庭血圧と診療所の血圧比較、Cの拮抗薬、ACE阻害薬、ARBを第一選択薬にして長期的予後をみるHOMED-BPには、当院の患者さん25例に参加してい



写真 1 ◆ 当院スタッフ (中央筆者)



写真 2 ◆ 当院外観

ただき、受診日ごとに血圧計を持参してもらい、Web から東北大学へ降圧薬、家庭血圧、診療所血圧などのデータ転送を約5年間おこなっております。

また、山口大学松崎益徳教授の塩酸ベニジピンを基礎薬にした COPE にも 16 例参加して、月 1 度治験コーディネーター (CRC) の方に、プロトコル違反がないか、必要な検査項目の抜けがないかをチェックしてもらいます。また、琉球大学薬理学の植田真一郎教授主導の、利尿薬使用群と非使用群にわけて予後調査をおこなう DIME にも 21 例参加しており、これも琉球大学から

CRC の方がチェックに参ります。他にも、地区医師会での臨床研究やメーカー主導の臨床データの提出をおこなっています。

小さな診療所で、高血圧で通院中の患者さんは 700 名近くですが、年齢とともに脂質異常症、糖尿病、狭心症、脳血管障害、腎障害などの患者が増加しています。最近では、診療所の症例を解析する時間的余裕がなく反省しています。